

■ 求めればいつか勝利はやってくる ■

練習試合では完敗だったというから、勝負はやってみなければ分からないものだ。女子バスケットボール部が今年度の公式戦で初めて勝利した。部員は11人。中学校からの継続者は6人しかいない。だから、自チームだけでは、5対5の練習もままならない。

4月中旬、赴任して初めに見たのが女子バスケの公式戦だった。勝てるかもしれない相手に、いいところなく敗れた。悔しいのか、選手は泣いていた。後日練習を見に行き尋ねたら、「勝ちたい」と返事が返ってきた。部員には「試合には、日頃の練習がそのまま出るのだから、練習のレベルを上げよう」と伝えた。

それから時折、時間ができると、放課後に練習に顔を出している。3年生の最後の大会は前半まで善戦するも勝てず、今年度の公式戦は全敗が続いていた。それでも監督の指導のもと、基礎から練習を積み重ねてきた。迎えた新人大会、地力に勝る相手との対戦に、「シュートは思いっきり打つこと。デフェンスリバウンドをチームでとること」をアドバイスした。



開始後の主導権は、相手に握られた。スピードについて行けない。ゴール下に切り込まれ得点を決められる。嫌なムードだったが、相手の攻撃が少しずつ読めるようになると、決定力のある選手には、チームディフェンスで対応できるようになっていった。シュートが落ちれば全員でリバウンドに食らいつき、徐々にペースをつかんでいった。

前半でなんと20点のリード。上出来だが、油断はできない。これまで一試合を通じて崩れずに通した経験は乏しい。相手は全力で襲いかかってくるだろう。ベンチでは気持ちを引き締め直している。受けに回らず、最後まで挑戦者として闘ってほしいと願った。

このチームの良さは、明るいことだ。走力も技術も経験も足りないが、ハートだけはあ。前向きにすれば辛い練習も楽しくなること、ゆっくりでも努力は実を結んでいくこと、心が折れかかっても這い上がってくること、一人では不可能なこともチームが一体となれば可能にできること……。生徒は部活動から日々多くのことを学んでいく。

後半、相手が攻勢に出た。徐々に点差が縮まっていく。ハラハラし通しだ。観客席から指示を出したくなかったが、なんとかこらえた。監督と選手を信じなくては。詰め寄られても、落ち着いて要所を決めていく。10点のリードを保ちながら、逃げ切った。

初勝利！ みんないい顔をしている。あの、うだるような夏の体育館で流した汗もここに報われた。そして、努力の結実は小さな自信になったことだろう。

これから冬が来る。チームは春に向けて新たな目標を目指す。体育館が凍てついても、またあのキラキラした目を見に行こうと思う。厳冬を越して樹木は芽吹く。来春、人間の成長した彼女たちに会えることが楽しみである。